

第3章. ワークショップの結果

1. グループワーク1のまとめ まちづくりのために「やりたいこと」「意見」を出し合おう！

(1) 意見の概要

グループワーク1で出された意見を整理すると以下のように分類できた。主な意見の内容については次項(2)で整理し、全意見は資料編に掲載する。

主な項目	主な内容
コミュニティや 町内会のこと	☐ 声を掛け合える関係づくり ☐ 町内会活動のあり方 ☐ 参加・参画の機会促進 ☐ 見守りや支え合いの仕組みづくり ☐ 子育て支援・一人親支援
市政情報の 発信・受信について	☐ 市民がもっと市政情報に関心をもつ。 ☐ 高齢者・若者の関心喚起。 ☐ 回覧板の有効活用・見直し
まちの魅力づくりに ついて	☐ 札幌市の魅力づくり ☐ 各区の魅力づくり ☐ 観光や地域資源の魅力づくり
みどりや自然のこと	☐ 公園のこと ☐ 花や樹木・河川のこと ☐ 自然や環境のこと
交通や道路のこと	☐ 公共交通機関のこと ☐ 道路のこと ☐ 除雪のこと
公共施設や インフラ整備のこと	☐ 公共施設の利用のしやすさ など

(2) 意見の総まとめ／グループワーク 1. まちづくりのために「やりたいこと」「意見」を出し合おう！

コミュニティや町内会のこと
<u>声を掛け合える関係づくり</u> ☐子どもに声かけをしにくい時世。関係づくりはより大切。 ☐多世代が交流できる場や機会を増やす。 ☐地域の会館等を交流の場として有効に活用する。 ☐町内会を活かした交流・親睦を深めたい。
<u>町内会活動のあり方</u> ☐新たな活動や活動の仕組の検討・模索が必要。 ☐町内会と札幌市で連携出来ることをもっと検討する。
<u>参加・参画の機会促進</u> ☐まちづくり活動をしてみたいが、町内会に声をかけにくい。 ・組織が多く、誰に相談すべきか不明。 ・組織が多いので、申し出ると負担が増えてしまいそう。 ・課題に特化した個別のボランティアがしにくい。 ☐札幌市や区単位でボランティア登録の実施 ・地域とボランティア希望者のニーズとシーズのマッチングがデータでできる仕組みなどの展開 ☐転入者に「市民自治参加のススメ」を配布。自治機運を高める。
<u>見守りや支え合いの仕組みづくり</u> ☐高齢者の孤立、孤独死への対策 ・高齢者と若者・子どもとの交流を増やす料理教室等の実施 →子育て支援や子どもたちの QOL 向上へ →高齢者の孤立防止・QOL 向上、認知機能向上へ ☐高齢者や障がい者が外出しやすくする仕組みづくり ・高齢者が家から出て、交流する場所が少ない。 ・ご近所同士で、外出等に少しの手助けができる仕組み ☐高齢者の雪かきを支援する積極的対策の導入、仕組みづくり ・除雪アプリの導入　・福祉除雪の仕組み改善 ・除雪ボランティア時差出勤制度の創設。 ・ボランティア参加者にはポイント還元。 ☐ご近所との挨拶できる関係づくりで地域防災力を高める。 ☐地域の自主防災計画の有無、機能状況、計画の PR の実施。
<u>子育て支援・一人親支援</u> ☐子どもの職業体験の場をつくる。 ☐子育てへのサポートを増強してほしい。 →給付金制度の増設　→病児・病後保育の拡大と情報提供。 ☐不妊治療への金銭的・精神的サポート制度。 ☐子育てと就業を両立できるワークシェアリング等の仕組みづくり。 →短時間勤務や勤務回数限定を可能にする。

市政情報の発信・受信について
☐市民がもっと市政情報に関心をもつ方法や仕掛けを検討する。 ☐高齢者も若者も情報を受け取りやすくするために、紙媒体とネット配信の効果的な並行展開。 ☐若者向けに Zoom でのウェビナー、SNS などの積極的な展開。 ☐回覧板の有効活用、もしくは回覧板に代わる新たな媒体づくり。

まちの魅力づくりについて
<u>札幌市の魅力づくり</u> ☐札幌らしい展示やイベントの実施 ・個人でも楽しめる　・自然や鳥の写真　・アニメや漫画 ・多世代が楽しめる新旧とりまぜた作品 ☐道外在住者のイメージをより高め、住みたい街トップランキングを維持し、周知する。
<u>各区の魅力づくり</u> ☐地域住民が作成する、区の自慢をする冊子の作成・発行 ☐区の魅力を伝えるイベントの開催。 ・区の自慢を競う　・物販や芸術などのイベント開催
<u>観光や地域資源の魅力づくり</u> ☐札幌来訪者と市民の交流の場を設置する。 ☐札幌の魅力をまず市民に伝える。 ☐市民が札幌を観光し、積極的に PR する。

みどりや自然のこと
<u>公園のこと</u> ☐「札幌の顔」大通公園の利活用を促進する設備・環境づくり。 ☐公園設備・備品の改良、イベントアイデア ・遊具の貸し出し　・伐採木の配布　・DIY 体験 ・自然体験イベント　・公園清掃イベント
<u>花や樹木、河川のこと</u> ☐札幌のイメージ向上につながる、みどりを増やし、花いっぱいになる活動をしたい ☐街路樹や公園内の老木の植え替えと伐採木の有効利用。 ☐河川の清掃。
<u>自然や環境のこと</u> ☐人だけでなく動物も住みやすいまちづくり。 ☐専門家のアドバイスを受けた、動植物出現情報を発信する。 ☐場所や動植物を限定した写真コンテストの開催。

交通や道路のこと
<u>公共交通機関のこと</u> ☐バス路線・地下鉄乗り換えの路線の見直しで、待ち時間・移動時間を減少。 ☐地下鉄の延伸（麻生～屯田、福住～清田）。 ☐身近な生活圏で使いやすい新たな交通手段の検討・導入。
<u>道路のこと</u> ☐高齢者や障がい者に配慮した道路整備。 ☐道路の危険箇所情報、時間帯情報のとりまとめや意見募集ができる情報サイトの設置。 ☐街灯の増設と、街灯に関する問合せ先の明示。 ☐自転車・自動車のマナー向上。
<u>除雪のこと</u> ☐雪置き場や流雪溝の増設。 ☐凍結路面の技術的改善。アスファルトの新技術導入等。

公共施設やインフラ整備のこと
☐保健センターは区内に一つ。距離が遠く子ども連れでの移動が大変。 ☐図書館等の公共施設では席の占有等を減らし、市民誰もが日常的に利用しやすい施設へ。 ☐高齢者や障がい者が外出しやすいインフラ整備（ノンステップバス、エスカレーター、エレベーター等）

2. グループワーク2のまとめ 市政への市民参加促進のための取組を出し合おう！

グループワーク2で出された意見を整理すると以下のように分類できた。主な意見の内容については次ページから整理し、全意見は資料編に掲載する。

(1) 主に出された項目

多様な情報媒体の活用と双方向での情報・意見交換	
	市民は意見を伝え、市は情報を多様な媒体で発信する
	テレビや動画を活用する
	市は電子化をすすめて、市民参加を促進する
	回覧板を活かす・見直す
	市政参加の専門サイトやSNSを設置する
	公共施設・民間施設に情報を掲示する
	市民と行政の交流機会を日常化する
	ワークショップを開催して、周知・展開する
	子どもたちに関心を持ってもらう
	まちをもっと身近に感じられる工夫をする
まちづくり活動への参加・参画を通じた市政への参加	
	まちづくり活動や町内会のあり方・方向性を考える
	ボランティアやまちづくり活動への参加・参画を促進する
	人のつながりを保ち、孤立を防ぐ
	若者・子どもたちが「学び」を通じてまちづくりに参加する
	高齢者と子ども・若者の交流を生み、暮らしを支え合う
	市は必要な公共工事を実施し、市民は公共施設を大切に使う
	市民と行政でバス路線の見直しを行う
	マナーの向上を図る

(2) 市政参加について共通して出された課題認識と方向性

- ☐ 情報は探さないと入ってこない、気付かない。気が付くとイベントが終了している。
- ☐ より発信力をもつあらゆる媒体を積極的に活用し、広い世代に見えるようにする。
- ☐ 子どもから大人まで関心を惹くデザインやキャラクターを用いる。
- ☐ 電子化が重要。一方で対応できない方に向けた紙媒体等による双方向の情報受発信も大事。
- ☐ 若い世代は「ネット」、高齢者は「紙媒体」が得意。「テレビ」は各世代共通して使いこなしやすい、積極的にしやすい。
- ☐ 既存の情報媒体の利用促進を図る。
 - 総合的な情報は「広報さっぽろ」 →地域の細かい情報は「北海道新聞さっぽろ 10 区」
 - テレビ「札幌ふるさと再発見(STV)」 「NORD のさっぽろキラキラライフ(HBC)」 など
- ☐ 「広報さっぽろ」も見ない人は絶対見ない。他の PR 媒体が必要。
- ☐ 個人のニーズ、ターゲットに合わせた媒体や内容のセレクトが必要。
- ☐ 興味・関心を惹く人による PR（札幌に関わり、若者にも好まれるタレント、市長等）
- ☐ 情報発信、収集に町内会を活かすとともに、それをきっかけに町内会やコミュニティの活性化につなげる。
- ☐ わたしたち市民自身がまちづくりに関心をもち、意見を伝え続ける。

(3) 意見の総まとめ／グループワーク 2. 市政への市民参加促進のための取組を出し合おう！

市民が心がけるべきこと ／ 市が行うべき取組・工夫

多様な情報媒体の活用と双方向での情報・意見交換

市民は意見を伝え、市は情報を多様な媒体で発信する

- ☐ 「広報さっぽろ」を読む。
- ☐ 声を上げ、伝え続ける。黙っているは何も変わらない。
- ☐ 自分が良く使う情報収集ツールを知らせる。
- ☐ 既存の広報番組や情報ツールをもっと知り、見る。
- ☐ 情報収集をして、必要としている人に広げる。

- ☐ 既存の広報番組やツールをもっと周知する。
- ☐ イベントは複数媒体で周知する。
- ☐ 広範な「広報さっぽろ」と細かい情報が載る「さっぽろ 10 区」を使い分ける。
- ☐ 高齢者のことを考えネットばかりにならないようにする。
- ☐ 個人の志向やニーズを考え、ターゲットに合った掲載場所、掲載内容・事柄を検討する。
- ☐ 問い合わせ先や部署、電話番号などを明確に知らせる。

テレビや動画を活用する

- ☐ 市が行うテレビ番組や zoom、Youtube などでの情報発信に対して、気軽にコメントする。
- ☐ 情報発信にはテレビや動画を活用する。他の媒体よりも多世代が使いやすい。
- ☐ 市政参加の機会は、テレビで広く周知する。
- ☐ 札幌市政情報について、ゴールデンタイムに放映する。
- ☐ 夕方のバラエティ番組で意見等を募集してもらう。
- ☐ 秋元市長が Youtuber として情報を発信し、市民はコメントを付けて双方向で交流する。
- ☐ 札幌出身タレントを起用する。TEAM NACS など若者に共感を呼ぶ人が良い。

市は電子化をすすめて、市民参加を促進する

- ☐ 市の広報活動にパソコンやスマホをもっと活用する。
- ☐ 情報収集・会場予約、参加申込などの手続きを一括で電子化する。
- ☐ 高齢者に向けたタブレットを貸し出したり、講座を開催して利用を促進する。
- ☐ ネットを利用できない方に向けては、大型店舗やスーパー、まちセンなどに用紙や目安箱を設置する。

回覧板を活かす・見直す

- ☐ 回覧板は高齢者も読みやすいのでまだまだ価値がある。「読まなくても良い」ものではなく「読む」もの。
- ☐ 回覧板は「ぜひ読みたい」と思える内容を目指して見直す。
- ☐ 回覧板も双方向でやりとりできる内容にする。
例) 「住民の声」を書き込む、「いります、あげます」コーナー、ボランティアできる人と力が必要な人のマッチングができる…等

- ☐ 町内会回覧板の活かし方、見直し方法について支援する。

市政参加の専門サイトや SNS を設置する

- ☐ 市民はまちづくり活動に興味を持ち、市政やまちづくり活動などについて SNS などで情報や感想を発信する（フォロワー機能、ハッシュタグ活用）。良いと思ったら拡散する。
- ☐ 意見や提案を積極的に発言し、伝える努力をする。
- ☐ 意見を発信する時には「より良いまちづくり」への意識を持つ。
- ☐ 否定的な意見よりも未来につながる意見を出すようにする。
- ☐ 言葉づかいに気を付ける。

- ☐ 市政参加の専門窓口となるホームページや SNS を開設する。
- ☐ 市は Twitter、Instagram で情報を発信する。
- ☐ LINE で意見を募集する。
- ☐ 双方向で意見交換ができる「市長と zoom 会議」を開催する。
- ☐ WEB フォームやはがきでも意見を投稿できるようにする。
- ☐ アンケートもネットで展開する。
- ☐ アンケートは月 1 回程度定期的実施する。回答を習慣づける。
- ☐ ネットを使えない人のために駅・スーパー等に投票用紙・解答用紙などを設置する。
- ☐ 回答者・意見をくれた人にはプレゼントやポイントなど、インセンティブを付与する。

公共施設・民間施設に情報を掲示する

- ☐ 地下鉄・駅舎・車両、バス、大型商業施設、コンビニにポスター等を掲示。参加申込や詳細は QR コードに掲載。市民は通勤や買い物等のついでに情報を得られ、その場で申し込みできる。
- ☐ 学校に市政案内周知プリントを配布し、子どもを通じて親にも知ってもらう。
- ☐ 企業が市に市政情報の PR ができるスペースを提供する。企業の業種と関連性のある内容が良い。

市民と行政の交流機会を日常化する

- ☐ まちづくりセンターの運営に関わる、支援する。
- ☐ まちづくりセンターを市民に身近なものにするため地域自主運営化を推進する。運営規約に市政参加機会の増進（ワークショップ開催等）を含む。
- ☐ 地区センター単位のオープンハウスなどによる意見交換を継続的に実施する。
- ☐ まちづくりセンターに目安箱を設置する。

ワークショップを開催して、周知・展開する

- ☐ ワークショップに参加した人は、参加の感想や意義を周囲に伝えて、次の参加者にバトンを渡せるようにする。
- ☐ 出前講座やワークショップの様子はテレビや動画で配信する。
- ☐ ワークショップは結果と結果に至るプロセスを公表する。
- ☐ ワークショップ等が目的にかなう成果を出しているか振り返る。

子どもたちに関心をもってもらう

- ☐ 学校や児童会館へ市の職員の出前講座に来てもらう。
- ☐ 子どもたちが近所の人ときちんと挨拶できる関係づくりやコミュニケーションをもつ。
- ☐ 子どもたちが学校や児童会館で市政について学び、行政とのコミュニケーションができる機会を増やす（出前講座等）。
- ☐ 子どもが思わず見てしまう「かわいい」情報発信ツールを作成する。子どもが見ると親も見ると。
- ☐ 社会や図工等の授業で、市政に関するアイデアを児童に出してもらい、コンテスト等を開催する。

まちをもっと身近に感じられる工夫をする

- ☐ 区の魅力や特色をもっとわかりやすく伝える。
→ 10 区のイベントやまちづくり活動をまとめて見られる場を設ける。
→ 区の取組を TV 広報で紹介する。
- ☐ 市の自治意識やまちづくりの姿勢自体をブランド化する。
- ☐ 市外の人が札幌市を魅力的に感じる情報発信をし、市民も魅力に気付く機会を増やす。
- ☐ 市民が知らない、「市役所と各区」また「他自治体」との連携や取り組みのようすを PR する。
- ☐ 札幌市の転入者に対して、市政への参加やまちづくりへの参加を促すような情報を提供する。
- ☐ 「じっちい、まっちい」をかわいいデザインにして、活用する。

まちづくり活動への参加・参画を通じた市政への参加

市民が心がけるべきこと / 市が行うべき取組・工夫

まちづくり活動や町内会のあり方・方向性を考える

- ☐ 一人ひとりが市に頼らず、地域の一員としての意識を持つ。
 - ☐ もっと自分の周りに関心を持つ。
 - ☐ 情報収集をして、必要としている人に少しでも広める。
 - ☐ 町内会に参加し、回覧を閲覧する。
 - ☐ 町内会活動へのより一層の協力と意見を発信する。
 - ☐ 町内会と PTA 活動の連携・連動を促進し、子育て世代と子どもに町内会活動への関心を喚起する。
- ☐ 相談できる部署や相手、必要な情報が分かる入口・窓口を設置・展開する。
 - ☐ 札幌市は、時代に合う町内会のあり方を示す。
 - ☐ 町内会と異なる地域コミュニティのあり方も検討する。

ボランティアやまちづくり活動への参加・参画を促進する

- ☐ 市民が自分からできることを伝える、参加する。
 - ☐ 町内会で、支援が必要な人たちに速やかに援助を届ける仕組みをつくる。
 - ☐ ボランティアすることで得られるメリットを伝えて参加を促進する（認知症予防、健康寿命が長い、肥満が少ないなど）。
 - ☐ 事故などに備えたボランティア保険活用を推進する。
- ☐ まちづくり活動やボランティアの活動のようすを「広報さっぽろ」にもっと掲載する。
 - ☐ 気軽に登録したくなるような情報発信をする。
 - ☐ 町内会や区、地域共通のボランティア登録システムやアプリ、ネットワークをつくる。
 - ☐ ボランティアのニーズとシーズのマッチングの仕組みや、情報交換の場をつくる。
 - ☐ マッチングの仕組みなどをつくるときは、個人のニーズに合った参加を促すために、ニーズとシーズの分野を細かく設定する。
 - ☐ ボランティアのコーディネートをしている・する人たちを支える。

人のつながりを保ち、孤立を防ぐ

- ☐ 孤立させない・しない。人とのつながりを保つ仕組みづくり。
- ☐ 地域の人とのつながりを普段から意識する。（万一の災害時の情報受発信にも役立つ。）
- ☐ 区の会館をより活用する。近くに住んでいる人はいつでもサロンのように自由に使える場所を設ける。
- ☐ 児童会館等だけでなく、子どもの見守りや、基礎学力、食事もサポートできる体制づくりや支援を考える。
- ☐ 子どもと高齢者の交流と暮らしの支えにつながる料理教室の企画・材料の提供・参加者募集を管理する。

若者・子どもたちが「学び」を通じてまちづくりに参加する

- ☐ 高校生、大学生が高齢者に情報を伝えたり、SNS ツールなどの使い方を教える。
 - ☐ 高校生、大学生が地域課題のお手伝いをする。
 - ☐ まちづくりや市政参加を市立高校のカリキュラムに含める（大通高校ちえりあ講座等）。
- ☐ 若者が高齢者にスマホやパソコン等のツールの使い方を教える。

高齢者と子ども・若者の交流を生み、暮らしを支え合う

- ☐ 子どもと高齢者の交流を図る。
- ☐ 子どもと高齢者の暮らしを支える料理教室を開く。
- ☐ 子どもの暮らしを支える食材を集める仕組みをつくる。
- ☐ 高齢者などを中心に、基礎学力が不足している子ども達に勉強を教える。
- ☐ 興味のある教室などに参加する。
- ☐ 近所の人とあいさつし合う。

市は必要な公共工事を実施し、市民は公共施設を大切に使う

- ☐ 利用者自身がルールやマナーを守り、誰もが安心して使えるようにする。
 - ☐ 利用者が一部費用を負担する。
- ☐ 公共工事の推進（地下鉄延伸、流雪溝・融雪槽の敷設等）
 - ☐ 道や市、区の役割分担をわかりやすく示す。

市民と行政でバス路線の見直しを行う

- ☐ バス路線見直しのアンケートに参加する。
 - ☐ アンケートには現状だけでなく将来を見据えた意見を考え、述べる。
- ☐ 大型でなく中型・小型バスの運行を増やす（補助金改正）。
 - ☐ 地下鉄とバスの連携、ルート等へのニーズアンケートを実施。バス会社と展開を考える。

マナーの向上を図る

- ☐ マナーに関する呼びかけ・注意を受け入れる姿勢をもつ。
 - ☐ 気が付いたごみは持ち帰るようにする。
- ☐ 自然環境保全の意識を高める。
 - ☐ 回覧板などで地域美化・ゴミ拾いの参加などを呼び掛ける。
 - ☐ 駐車違反の見回り時間を不規則に実施する。
 - ☐ 公園の注意事項を書いた看板などの数を増やす。
 - ☐ 公共マナー向上につながる講習を企画・開催する。

